

外科医の減少が危惧される中、日本内視鏡外科学会 (JSES) の会員数は年々増加している。その数は今では 12,000 人を超え、学会の運営に携わる評議員も 880 人に達している。その人気の理由は、やはり本学会が、「内視鏡外科」というテーマのもと、外科医の王道とも言える「手術手技」にこだわり続け、創意工夫と新しいテクノロジーの革新を積み重ね社会に貢献してきたためと考える。一方、新しい手術手技の発展には、必ず、客観的、科学的な評価方法のもとに従来手術と比較した有用性や安全性が示されることが必要である。新しい手術手技の開発、改良、そして標準化を支えるサイエンスの根幹の一つが本学会誌の役割だと感じている。

本誌は 1996 年に創刊され、今年でちょうど 20 年を迎えた。その赤を基調とした表紙には、先人たちの絶え間ない努力と情熱が感じられ、私は秘かに本誌を和製レッド・ジャーナルと呼んでいる。そしてこの度、渡邊昌彦新理事長のもと、この歴史と伝統ある本誌の編集委員を担当することとなり、大変光栄に感じている。本誌への投稿の特徴は、比較的若手外科医が多く、大学のみならず市中病院における手技の工夫やデバイスの開発、それらに関する症例報告などが毎月数多く寄せられている。11 名から構成される編集委員会では、毎回、一つ一つの投稿論文を目の前に皆、真剣勝負であり、新知見・論理性・倫理性に基づいて厳格に評価するだけでなく、どのように加筆修正したら掲載に値するかを徹底的に議論している。優れた原著論文に対しては学会英文誌への投稿も推奨している。今では 2 か月に 1 回の論文査読がとても楽しみになっており、編集会議は外科医の「創意工夫」、「着想の豊かさ」を知り得る“至福の場”でもある。

最近、各学会とも英文誌の発行が積極的にすすめられており、和文誌の存在意義が問われている。しかし、Surgical evolution と称される内視鏡外科においては、次々と産まれる新しい手技やデバイスのアイデア、またそのピットフォール (想定外の合併症) を逐次本誌に報告することによって、領域を越えた情報共有と考察がなされ、さらに安全で患者にとって有用な内視鏡外科の発展に寄与することが必至である。国際化時代だからこそ、本学会和文誌の価値は、さらに高まると言えよう。

(猪股雅史)

日本内視鏡外科学会雑誌

(第 21 巻 第 4 号) 2016 年 7 月 15 日発行・隔月刊

Journal of Japan Society for Endoscopic Surgery (Tokyo)

(1 部) 定価: 本体 2,800 円 + 税 * 会員には毎号送付されます。

2016 年 年間購読料: 冊子版 16,380 円 + 税, 電子版/個人 16,380 円 + 税, 電子版/共有 18,840 円 + 税, 冊子 + 電子版/個人 19,380 円 + 税, 冊子 + 電子版/共有 21,840 円 + 税 (配送料: 医学書院負担) * 会員には冊子版が毎号送付され、学会ホームページから電子版が閲覧できます。

編集・発行: 日本内視鏡外科学会 (代表: 渡邊昌彦)

〒100-0013 東京都千代田区霞が関 1-4-2 大同生命霞が関ビル

日本コンベンションサービス株式会社内

☎ 03-3503-5917 Fax 03-3508-1257 E-mail: info-jses @ convention.co.jp (担当: 野上)

http://www.jses.or.jp

Published by Japan Society for Endoscopic Surgery, 1-4-2 Kasumigaseki, Chiyodaku

Tokyo, 100-0013, Japan ©2016, Printed in Japan

発売: 株式会社医学書院 (代表: 金原 優) (本誌担当: 水野, 安部) http://www.igaku-shoin.co.jp/

http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/jses/

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23 (振替口座 00170-9-96693 番)

本誌編集室直通 ☎ 03-3817-5707 (Fax 03-3815-7802 / E-mail: jses @ igaku-shoin.co.jp)

販売部直通 ☎ 03-3817-5659 (Fax 03-3815-7804)

印刷所 横山印刷(株) ☎ 03-3622-6161 (Fax 03-3625-1591)

広告申込所 (株) 文京メディカル ☎ 03-3817-8036 (Fax 03-3817-8044)

・本誌に掲載する著作物の複製権、上映権、公衆送信権、翻訳・翻案権、二次的著作物利用権、譲渡権等は日本内視鏡外科学会が保有します。

・JCOPY (社) 出版者著作権管理機構 委託出版物) 本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつと事前に、(社) 出版者著作権管理機構 (電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。

●原著

成人片側性鼠径ヘルニアに対する細径器具を使用した transabdominal preperitoneal repair (TAPP) 法と単孔式 TAPP 法の短期治療成績の前向き比較研究須藤隆之・他 盛岡市立病院外科
腹腔鏡下子宮筋腫核出術における in-bag morcellation の検討萩原聖子・他 メディカルトピア草加病院婦人科

●症例報告

S 状結腸卵巣瘻と直腸子宮内膜症を腹腔鏡下に一期的切除しえた 1 例早川俊輔・他 刈谷豊田総合病院外科
術前診断し Reduced Port Surgery にて修復した子宮広間膜裂孔ヘルニアの 1 例飯高大介・他 済生会滋賀県病院外科
遊走脾を伴う反復性胃軸捻転に対し腹腔鏡下脾固定術・
胃固定術を行った Marfan 症候群の 1 例望月響子・他 神奈川県立こども医療センター一般外科
経食道裂孔的に腹腔鏡下縫合閉鎖を行った両側開胸手術既往のある食道破裂の 1 例中川暢彦・他 岡崎市民病院外科
肝胃動脈幹を有する胃癌に対して腹腔鏡下胃全摘術を施行した 1 例浜野郁美・他 姫路赤十字病院外科
CT 検査で術前診断し腹腔鏡下に手術を施行した Winslow 孔ヘルニアの 1 例宇根範和・他 相澤病院外科
腹腔鏡下に診断し pemetrexed (PEM) + cisplatin (CDDP) 療法を行った悪性腹膜中皮腫の 1 例永松伊織・他 国立病院機構小倉医療センター外科
^{99m}Tc-Sn-colloid Scintigraphy で診断し胸腔鏡下修復術を施行した CAPD 横隔膜交通症の 2 例森下繁美・他 総合病院鹿児島協病院外科
経肛門の小腸脱をきたした特発性直腸穿孔に対して腹腔鏡下手術を施行した 1 例岩村宣亜・他 北野病院消化器センター外科
外傷性横行結腸穿孔に対して腹腔鏡補助下手術を施行した 1 例扇原香澄・他 厚生連高岡病院外科
腹腔鏡下に修復した S 状結腸間膜内ヘルニアの 1 例原田宏輝・他 北里大学メディカルセンター外科

但し誌面の都合により変更がございます。ご諒承ください。